

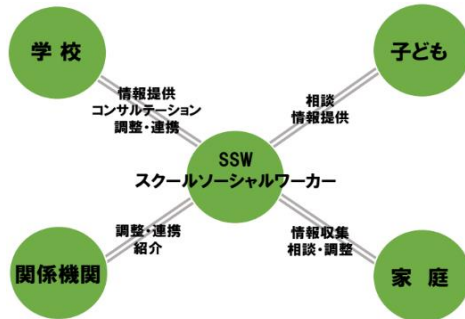
【A-38】 スクールソーシャルワーカーの役割と支援 / 宮野 伸枝氏

☑ スクールソーシャルワーカーとは

目的) 種々の要因によって児童生徒が著しく **教育を受ける機会・権利を侵害された状況**に対して **速やかに** 社会福祉的方法でその状況を改善し教育を保障する

配置のねらい)

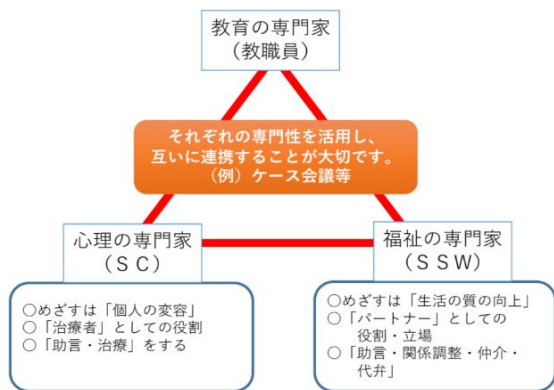
- ◆子どもが学校生活を送る中で直面する困難について、子どもの最善の利益を追求し、教育権の保証と自立支援の視点から、問題の解決を目指していく。
- ◆福祉の専門的知識・技術を持って、本人と本人の置かれている環境（家族・学校・地域）に働きかけていく。



☑ SCとSSWの違いについて

種別	問題のとらえ方	援助の焦点	援助の方法
SC スクール カウンセラー	内面的な成長や 気づきが問題解決 の鍵	個人の内面（心理）	カウンセリングを 通じて問題解決
SSW スクール ソーシャルワーカー	問題は、子どもを 取り巻く環境との 相互作用の中に 生じている	子どもを取り巻く 生活環境全体。 子どもと環境の両方	家庭、学校、地域 との間で調整。地 域の資源、情報の 橋渡し

※SSWは、子どもの**家庭環境などを改善させること**を通して、**子どもの自立の力を高めます。**



☑ 教育と福祉の連携

教育以外の専門スタッフとしてスクールソーシャルワーカーや関係機関と連携して課題に取り組んでいく「**チーム学校**」の構築が**重要** となってきている

◆ 福祉の視点・・・ 「木（子ども）を見て 森全体（生活全体）も見る」

※ その子、そのもの一つだけを見ても、その環境、取り巻くもの全てをみなければ
子どもの良くない点、よくない状況をよい状況にかえることをできない

◆ 教育現場に福祉の視点を取り入れる ➡➡ **スクールソーシャルワーク**



- ニーズ要因を深く探る
- ニーズ背景を把握する
- 校内協働

- ニーズは一つではない
- 「困ったな」と思われることそのもの以外のニーズが存在する
- 「困ったな」と思われることの背景には、どんな問題があるのかを正しく把握する
- 子ども抱えるニーズを教職員間で共有認識し、担任教師一人で抱え込まないように、役割を明確にする

◆ SSWの具体的な支援

(直接支援)

児童生徒・家族への直接的なかかわり

- ・児童生徒、保護者面接（家庭訪問を含む）
- ・児童生徒や保護者のためのグループワーク

(間接支援)

学校や先生を通じてのサポート

- ・ケースの情報収集、アセスメント、プランニング
- ・校内ケース会議の開催、参加
- ・機関連携ケース会議への参加 など